

三期目の佐原市政

地方政治
クリエイト 伊藤 秀昭

■押し寄せる変革の波
佐原氏は選挙期間中に中学校区ごとに市内全域で個人演説会を行い、「そこで時代の変革の波に乗っていく姿勢をもっと歩を進める」ことを強調しました。

「少子高齢化が急速に進んでいる。産業のパラダイムシフトが起り始めたりしている。それだけにしっかりと舵(かじ)を取り、市政が新しい時代にマッチしていかなければならない。変わらなければ社会システムが維持でき

められる中、その活路を東三河広域連合の8市町村による「チーム東三河」にかける期待は内外ともに大きい。

「東三河の『地域力』と『自立力』を高めたから、成長する広域連合を目指します」と昨年1月末に発足

した時、義母も気に入ったある施設が豊川市にあつたが、「行政区を超えて地域密着型サービスを受けるのは難しい」ことを知った。

その施設から500歩も行けば豊橋市なのに、また新城市もその施設が近いの

に利用できません。逆に遠く離れた御津の人たちは同じ市内なので利用できるという矛盾も。

広域化されれば、このような壁も取り払われ、山間部の北設

業と都市部の間でスクールメリットが発揮されることになり、

大いに期待されます。一方で、東三河の中でサービス水準を平準化するために、東三河のリーダー都市として、地域全体の発展を担えるかどうかを問われていきます。

■起こせるかインベーション
2点目は、急激な人口減少を迎えている中、ビッグデータ

やAI(人工知能)、ロボットなどのテク

ノロジー(科学技術)で第4次産業革命を起そうというタイミングにある。

こうした条件をうまく組み合わせてインベーション(新しい切り口、活用)で経済の新陳代謝が促されればなりません。

来年秋には総事業費約148億円かけるバイオマス施設が稼働を始めます。中心市街地では駅前大通で再開発ビルが計画され、19年度には蔵書10万冊の「まちなか図書館」が開館します。

20年には東京オリ

ンピックが、26年には愛知・名古屋アジア大会が、そして27年にはリニア中央新幹線の開通が待っています。

時代は大きく変わります。そのスピードに遅れることなく、豊橋市が東三河が大きく変わっていくのか。三期目の佐原市政は大きな重責を担っています。

広域連合で変革の波を乗り切れ!

してもつすべし。年。その広域連合の成果を問われるのが、18年度に統合される介護保険事業。現在、統合に向け準備が進められています。

私事になるが、同居している義母が体調を崩し、近隣のケアハウスを見て回っ

た時、義母も気に入ったある施設が豊川市にあつたが、「行政区を超えて地域密着型サービスを受けるのは難しい」ことを知った。

その施設から500歩も行けば豊橋市なのに、また新城市もその施設が近いの

に利用できません。逆に遠く離れた御津の人たちは同じ市内なので利用できるという矛盾も。

広域化されれば、このような壁も取り払われ、山間部の北設業と都市部の間でスクールメリットが発揮されることになり、

大いに期待されます。一方で、東三河の中でサービス水準を平準化するために、東三河のリーダー都市として、地域全体の発展を担えるかどうかを問われていきます。

■起こせるかインベーション
2点目は、急激な人口減少を迎えている中、ビッグデータ

やAI(人工知能)、ロボットなどのテク

ノロジー(科学技術)で第4次産業革命を起そうというタイミングにある。

こうした条件をうまく組み合わせてインベーション(新しい切り口、活用)で経済の新陳代謝が促されればなりません。

来年秋には総事業費約148億円かけるバイオマス施設が稼働を始めます。中心市街地では駅前大通で再開発ビルが計画され、19年度には蔵書10万冊の「まちなか図書館」が開館します。

20年には東京オリ

ンピックが、26年には愛知・名古屋アジア大会が、そして27年にはリニア中央新幹線の開通が待っています。

時代は大きく変わります。そのスピードに遅れることなく、豊橋市が東三河が大きく変わっていくのか。三期目の佐原市政は大きな重責を担っています。